



平成 21 年 11 月 12 日

各 位

会 社 名 株式会社アイディーユー
代 表 者 名 代表取締役社長 池添 吉則
(コード番号:8922 東証マザーズ)
問 合 せ 先 管理本部副本部長 奥田 広志
電 話 番 号 06-4391-2001(代表)

特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 22 年 3 月期第 2 四半期決算において、下記のとおり特別損失を計上するとともに、平成 21 年 5 月 15 日に公表しました平成 22 年 3 月期第 2 四半期(平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)において特別損失の計上を行い、第 2 四半期及び通期(平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上及びその内容について

(1) 減損損失

当社が保有しております賃貸用不動産の1物件につき、入居率の低下に伴い、その収益性が低下したことから、固定資産の減損会計基準に照らし、76 百万円の減損損失を計上いたしました。

(2) 関係会社整理損失引当金

当社の 100%子会社である株式会社マザーズオークションカンパニーについて、同社が保有運営するゴルフ場における収益性の低下に伴い、その財務状況が悪化したことにより、64 百万円の関係会社整理損失引当金を計上いたしました。

(3) 事務所移転費用

当社は本社及び東京事務所の移転に伴い、その原状回復工事費用及び不要設備や備品の除却に伴い、事務所移転費用として 60 百万円計上いたしました。

(4) 貸倒引当金繰入

当社は、取締役に対して行った納税資金のための貸付金につき、金融商品会計基準に照らして保守的に判断し、貸倒引当金繰入額 199 百万円を計上いたしました。

2. 業績予想の修正

(1) 平成 22 年 3 月期第 2 四半期累計期間連結業績予想値の修正

(百万円未満切捨て)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,520	△360	△470	△475	△1,868.00
今回発表予想(B)	941	△1,124	△1,297	△1,695	△6,668.29
増減額(B-A)	△579	△764	△827	△1,220	—
増減率(%)	△38.1	—	—	—	—
前期第 2 四半期実績 ※ (平成 21 年 3 月期第 2 四半期)	—	—	—	—	—

※前期第 2 四半期実績(平成 21 年 3 月期第 2 四半期)については、決算期変更に伴う変則決算(7 ヶ月間)であったため記載しておりません。

(2) 平成 22 年 3 月期通期連結業績予想値の修正

(百万円未満切捨て)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,960	210	10	0	0.00
今回発表予想(B)	2,530	△ 988	△1,378	△1,800	△7,078.76
増減額(B-A)	△1,430	△1,198	△1,388	△1,800	—
増減率(%)	△36.1	—	—	—	—
前期実績(平成 21 年 3 月期)	5,249	△1,865	△2,234	△3,452	△13,932.23

(3) 修正の理由

(第2四半期連結累計期間)

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済において、米国のサブプライムローン問題の長期化に起因する金融市場の信用収縮及び金融機関の不動産向け融資の厳格化など、不動産市況の厳しい状況が続いております。当第2四半期連結累計期間における連結業績予想値については、本社移転による地代家賃等の削減や各種諸経費の削減に加え、人員削減を実施するなど、抜本的な経費の削減を断行したものの、これらの施策に伴う一時的な損失の発生及び上記の厳しい事業環境を背景にした業務支援事業に係る不動産仲介手数料等の売上の減少に伴い、営業利益、経常利益、四半期純利益が前回予想を下回る見込みとなりました。

(通期)

通期業績予想についても、第2四半期累計期間の修正に加え、今後も引き続き厳しい事業環境が続くと予想されることから、第3及び第4四半期会計期間の売上高予想を見直しました。引き続き費用削減を進めますが、通期の営業利益、経常利益、当期純利益とも前回予想を下回る見込みとなりました。

※上記予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因により、予想と異なる場合があります。

以 上